

12月13日
大曲市民会館

仙北地域「農政講演会」 農業所得倍増を目指す

12月13日、仙北地域農政講演会実行委員会（大仙市、仙北市、美郷町、秋田県仙北地域振興局）主催による「農政講演会」が大仙市大曲市民会館で開催され、仙北市から約50人の農業関係者が参加しました。

講師に農林水産省 東北農政局長 佐々木康雄氏を迎え、国が公表した米政策の見直しを踏まえ、「これからの農政の展開方向について」と題して、



講師に佐々木東北農政局長。館内は450人を超える農業者等で満員となりました

「農林水産業・地域の活力創造プランの概要」を中心に農政の基本的考え方や攻めの農業による農業所得倍増を目指すことなどが話されました。

12月24日
仙北市民会館

荒木田裕子さん講演会・観光大使任命式 オリンピックをみんなの力で盛り上げよう



「ロンドンオリンピックでは選手やスタッフ、チームが一丸となり銅メダルを獲得した」と話す荒木田さん

12月24日、仙北市民会館で東京2020オリンピック招致委員会理事 荒木田裕子さんの講演会が行われ、市内中学生、生保内小学校の5、6年生のほか、会場いっぱい集まった皆さんは普段聞けない貴重な話に興味深く聞き入りました。

「スポーツの力 オリンピックの魅

力」と題した講演会では、ご自身のバレーボール全日本選手時代の世界三大タイトルへの挑戦や指導者としての取り組みから、東京オリンピック招致で世界中を飛び回ったエピソード、また、東京オリンピックに向けてスポーツ以外でも、得意な分野で係わり、みんなで盛り上げていこうと児童・生徒らに呼びかけました。

講演後は、仙北市観光大使の任命式が行われ、門脇市長から任命証と観光大使のたすき、名刺が手渡されました。これから荒木田さんには、国内外の人脈を生かして、市のPRや観光客誘致などにご協力いただきます。

12月6日・7日
あきた美菜館

「味覚市・スイーツフェスティバル」そばの郷仙北市・そばタベクラベの会」 食農観連携自慢の商品売り込む

東京都高輪にある「あきた美菜館」で、12月6日と7日の両日、仙北市産の食材を使用した食農観連携自慢の商品を売り込むプロモーションイベント「味覚市・スイーツフェスティバル」と「そばの郷仙北市・そばタベクラベの会」が開かれました。



西明寺栗、花豆、柿を素材に開発した商品へのこだわりや魅力を売り込みました

このイベントは、角館の横町さくら通り会が主体となって取り組んでいる仙北市食農観ビジネス推進委員会（佐々木正昭会長）と仙北市遊々楽々3トピア会議（沢山純一会長）が共同で行ったものです。スイーツフェスティバルでは、西明寺栗、花豆、柿を使ったナチュラルスイーツを盛り合わせてレストランで提供。そばタベクラベの会では、赤そば（高嶺ルビー）を含む仙北市産そば3種類のそれぞれの香り、風味、食感を楽しんだほか、そば前の地酒と先付けの「生保内だけのこ」「そばいなり」「いぶりがっこ」など、秋田の味を堪能しました。参加者からは、「秋田は米どころというイメージが強かったが、クオリティの高

い味と企画内容で、そば生産農家の取り組みに感銘した。来年も開催してほしい」といった声が聞かれました。

首都圏での仙北市産食材に特化した食に関するプロモーションはほとんど実施例がなく、参加した2団体は「仙北市の食文化や観光の魅力を丁寧に伝えることができた。次年度もこうしたプロモーションを通して『仙北市を知ってもらい、来てもらい、食べてもらい、周遊してもらおう』という食・農業・観光連携の情報発信をしていきたい」と意気込みを語りました。

12月20日
仙北市民会館

仙北市民会館ロビーコンサート 雪の降る夜に心温まる楽曲をお届け

12月20日、仙北市民会館でロビーコンサートが行われ、約50人の来場者が心温まる音色に酔いしれました。

ロビーで行われ、出演者と観客との距離が近く演奏を間近にみられると好評のこのコンサート。今回は角館在住の菅原弘明さん、大木彩乃さんが「心ぬくぬくポップスとスタンダードの夜」と題して、時に静かに、時に賑やかにオリジナルから演歌やポップスのカバー曲まで演奏し、集まった観客に楽しいひとときを届けました。



菅原弘明さんと大木彩乃さんの演奏を間近で楽しむロビーコンサート

12月26日～28日
角館交流センター

角館キッズ学びい教室 学力アップに二役

「角館キッズ学びい教室」が12月26日から28日の日程で角館交流センターを会場に行われ、市内外の小・中学生149人が参加しました。

この教室は、「楽しい学習オタスケマンの会（菅原正五郎会長）」が子どもたちの自学自習を支援しようと、毎年、夏・冬の長期休み中に行われ、今回が24回目。現職や退職した先生の「オタスケマン」のほか、地元高校生による「フレッシュオタスケマン」が3つの教室に分かれ、それぞれ子どもたちの質問に丁寧に答えていました。



「算数の計算をがんばってやりたい」「家で宿題するよりも集中できる」などと意気込む子どもたち

12月28日
市内JR各駅

秋田DCファイナルイベント 「まだきてけれなあゝ」の思い伝える

昨年10月から12月までの3か月間開催された「秋田デザインেশョンキャンペーン」（以下、秋田DC）の終了直前の12月28日、市内のJR各駅でファイナルイベントが開催されました。

JR田沢湖駅では、餅つきが行われ、つきたての餅やお酒が振る舞われたほか、田沢湖龍神太鼓による演奏、ゆるキャラたちのお出迎えやお見送りが行われました。JR角館駅では、ゆるキャラによるお出迎えとお見送り、ポップコーンや豚汁のサービスやちよっぴりプレゼントが配られるなど、期間中に本市を訪れていたいた沢山のお客様に感謝の意と「まだきてけれなあゝ」という思いを伝えました。



感謝の気持ちをもって秋田新幹線の乗客を見送りました

市民の皆様、関係機関のご支援・ご協力ありがとうございました

秋田DC期間の市全体の概要は前年同期と比べて観光入込客数は209%、宿泊客数は107%と増加傾向となりました。11月は、紅葉シーズンと秋田県種苗交換会の開催が重なったことから、414%という結果になり、伸び悩んでいた宿泊客数については、8月の土石流災害や9月の台風被害などの風評被害を拭えきれず前半は落ち込み傾向になりましたが、各地で新たなイベント開催やおもてなし効果により戻りつつあります。

秋田DCは12月末で終了となりましたが、今後も多くのお客様に仙北市を訪れていただけるよう、観光資源の更なる掘り起こし、おもてなしの向上、魅力ある仙北市の観光情報の発信などを積極的にしていきます。

また、今年の秋には「アフター秋田DC」や「第29回国民文化祭・あきた2014」が開催されます。引き続き皆様のご支援・ご協力をよろしく願います。